

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園北小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)自分の考えをもち、相手の考えを尊重し、 伝え合うことでお互いに高め合うことができる資質・能力 (2)自分の課題を発見し、課題解決のために学んだり、 学んだことを日常生活の中で生かしたりできる資質・能力
実施する学力向上策 【時期・頻度】	1学期:【土台作り】・対話のルール(聴き方・話し方)の定着。(授業毎) ・自分の考えを「書く」習慣の定着。(授業毎) 2学期:【応用・深化】・教科横断的な課題解決(単元で適当なところ)。 ・ICTを活用した、より高度な意見交流。(授業毎) 3学期:【総仕上げ・次年度への接続】・1年間の学びの成果をプレゼン等でアウトプット。(単元のまとめ) ・「自分で課題を見つけ、解決できた」という自己効力感の醸成(3学期を通して)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) ↓ 今年度の成果と 次年度の課題

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語:基礎的な語彙や漢字の読み書きは平均以上の定着度を示す一方、長文から必要な情報を抽出し、条件に合わせて根拠とともに記述する設問において課題が伺える。 ・算数:定型的な計算課題の正答率が高い水準を維持しているが、図形や量の変化の理由を言葉や数式で説明する問題や、複合的な情報から立式する問題で平均をやや下回る傾向が見られる。 ・授業への主体的な参加意欲やICT端末の活用頻度は高い水準にあるものの、「自分の考えを友達に分けやすく伝える」「学習内容を自分の言葉で振り返る」といった活動の質には改善の余地がある。 ↓ 結果から考えられる 児童生徒の実態 ・国語の漢字・語彙や算数の計算等「知識・技能」の定着度が高く、授業への参加意欲やICT利用率も優れている。 ・根拠を基にした文章記述や、理由の論理的説明・複数条件の立式といった「思考・判断・表現」に課題が見られる。 ・自身の考えを相手に分けやすく伝えたり、自分の言葉で学習を振り返ったりする言語化の質の向上が求められる。

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B ・低学年を中心に、対話のルールの定着を図っている。 ・自分の考えを「書く」授業は全学年適宜行っている。 ↓ 学力向上策の 見直し ・授業の振り返りにおいて、「できた・できなかった」の結果だけで終わらせず、「どうやって考えたか」「どんな工夫をしたか」を自分の言葉で書かせる。 ・算数では、解法に至る理由を図・式・言葉を用いて相互説明する機会を意図的に設定する。 ・ICTの共同編集機能を活用し、多様な意見をリアルタイムに分類・可視化する。 ・個別学習において、理解度や関心に応じた発展・補習課題を児童自らが選択して取り組むようにさせる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所